

2019. 9

9

328号 9/15

もえが
若井宏市さん書

MOEGI



医療法人社団萌気会

在宅療養支援診療所 (二日町)

在宅療養支援有床診療所 (浦佐)

行事予定 (9月15日~10月14日)

9月22日(日) びしゃもん茶房

9月28日(土) 浦佐認定こども園運動会

10月1日(火)~31日(木)

東京慈恵会医科大学付属病院
研修医研修

表紙写真: 山古志闘牛場

もくじ	
『2040 年問題』ってなに??	2
萌気会での地域医療研修を終えて	3
漫画 黒岩卓夫一代記	4
子どもの成長とことばの発達	5
フラメンコ鑑賞会	6
萌気祭り 2019	7
うちの利用者さん&家族からの文	8

浦佐診療所 ☎025-777-5222
二日町診療所 ☎025-778-0088
あやめ診療所 ☎025-780-4377

『2040年問題』ってなに??

萌気園浦佐診療所 院長
黒岩 巖 志



2040年、日本社会は大きな問題に直面することになる。

【急激な人口減少と高齢者の増加】

人口統計資料によると、日本の人口は2010年の約1億3000万人をピークに減り続け、2040年には1億600万人、2065年には1950年代と同等の8800万人まで落ち込む。2040年には、65歳以上の人口がピークに達し、高齢化率は現在の29%から37%まで上昇する。同時に20歳から64歳の現役世代人口が急激に落ち込む。1.4人の現役世代が1人の高齢世代を支えなければいけない時代となる。現役世代と高齢世代の数が接近することは『肩車』に例えられるが、これは楽観的な比喻である。2040年に高齢者となる1972年～1976年産まれ世代は「就職氷河期世代」と呼ばれ所得が低く非正規雇用やフリーターが多い。つまり老後に向けた十分な貯蓄が無い高齢者が増え、高齢世代の困窮化が進む。また、独居高齢者が4割を超え、さらに85歳以上の高齢者が高齢人口の3割となり高齢世代の孤立化、高齢化が進む。さらに現役世代の中でも不安定雇用層が増大し、生活に困窮しながら高齢世代を支えなければいけなくなる。このままでは『肩車』の上は重くなり、下は弱体化し、『肩車』は崩れてしまう。



どうすればいい?

【外国人】

アジア地域全体の人口は現在約44億人であるが少なくとも2050年までは増え続け52億人となる見込みである。人は居る所には居るのである。今後要介護高齢者が増え続けるにもかかわらず、介護士不足で多くの介護サービス事業所が閉鎖を余儀なくされているのが現状である。既に、介護施設、ファストフード店、コンビニでは外国人労働者が活用されているがまだ小規模である。国は法律を改正し、外国人が日本に来て働きやすいよう新たな在留資格を作った。これにより2025年までに50万人の外国人労働者の受け入れを見込んでおり期待したい。

【ロボット、人工知能】

医療・介護におけるロボット・人工知能の開発は日本が圧倒している。日本が世界で最も切羽詰まっているという表れである。「お尻を拭いてくれる便座」「起立・歩行アシストロボ」「手術支援ロボ」「薬品調剤ロボ」「採血ロボ」「緊急性も判断できる問診ロボ」「リハビリ支援ロボ」「腰を守ってくれるロボ」などがある。コストの問題で普及にはまだ時間がかかると思うが期待したい。



【高齢になっても働けるように】

高齢になっても働けて、社会参加ができるような環境整備が必要。高齢者の就業ニーズは、「お金稼ぎ」「生きがい」「社会参加」「暇つぶし」「健康維持」など多様である。複数の仕事からできそうな仕事、やりたい仕事を選ぶような仕組みを作ることが大切である。

【高齢になってもできるだけ長く健康でいられるように】

疾病予防、重症化予防、介護予防推進のために、医療機関・行政が企業とも連携し住民の行動変容を促す必要がある。特に健康無関心層へのアプローチが大切である。心の健康維持には居場所作りや役割付与が大切。認知症予防対策ももちろん大切である。

2040年問題を自分の問題と捉えて今やれることから始めていきましょう！

一般公開講演会のご案内

テーマ： **ストレスとうまくつきあうセルフケア**

講師：萌気園浦佐診療所 院長 黒岩 巖 志

9月18日(水) 19:00～20:30 南魚沼市役所本庁舎 2階

9月25日(水) 19:00～20:30 南魚沼市役所大和庁舎 3階

参加費無料・申し込み不要です。ご都合のつく会場にお越しください。

萌気会での地域医療研修を終えて

東京慈恵会医科大学付属病院 研修医 石部 裕太

今回は8月の1ヶ月の間、南魚沼にて地域医療について勉強させて頂きました。当初の魚沼という地域に対しての印象はやはり「米」で、この1ヶ月は美味しいお米、お酒も交えながら研修が出来ると期待してやって参りました。

研修の中で最も素晴らしいと感じたのは、限られた医療資源や医療アクセスへの制約を医師とコメディカルの連携によって補っていることです。普段は大学

病院に勤務しているため、患者さんの多様な症状に対しても、専門性の高い先生に依頼して診て頂くことは可能です。ただ複数の専門の診療が満足に出来ない環境の中で、患者さんの日々の変化に訪問看護師を始めとしたコメディカルの方々が極め細やかにサポートすることで、臨床状況として発現する初期の段階で疾患を見つけ、黒岩理事長や巖志院長の元へ連絡が届き対応されておりました。もち

ろん先生方の複数の診療科に渡る知識の会得の賜物ですが、初期段階であるからこそ患者さんを在宅にて治療することが可能だと痛感しました。

また治療に関しても都心の病院と異なっておりました。都心の大学病院は患者数も多く一人一人に時間を多く割けないため、その患者さんの疾患をその瞬間の症状や検査結果として捉えることで、あくまで「病気」の治療をすることが前提になってきます。ライフスタイルやバックグラウンドを踏まえ患者さんの家族と話し合い、患者さんにとっての最善を心がけている治療が、黒岩理事長を始めとした萌気会で働いている先生方は心にかけていると実感しました。

研修以外にも、長岡の花火大会は今まで見た花火の中で一番壮観でした！また八海山登山では山頂での食事や景色はとても素晴らしい、今でも思い出します！こども園では沢山子供達と触れあいました。僕は正直子供好きではなかったですが、かなり印象が変わり研修の中で一番楽しかったです！

最後になりますが、黒岩理事長、巖志院長を始めとした医師の方々と浦佐診療所、二日町診療所の方々を含めた研修でお世話になった方々に深く感謝を申し上げます。新潟に来て本当に良かったと思える1ヶ月でした！



後山、大森家で地元のお友達とお茶会



往診先にて



大和通所介護「地蔵の湯」



浦佐認定こども園



八海山登山

漫画 黒岩卓夫一代記 エピソードで描く

画：福留 慶
監修：黒岩卓夫



昭和28年（高1）頃は、教育界にも戦中の流れがあり、優れた人材も大学などの職がなく、高校の教師に情熱をかけた。ドイツ語やフランス語の先生もそうだと思う。学校も意欲があった。

卓夫少年高1の秋に父が58歳で日本の医者になった。開拓団では満州帝国の医師だった。満州帝国の消滅と共に父の

④ 資格もなくなった。こうした人へ厚生省は特別試験を施行した。

子どもの成長と ことばの発達

萌気園あやめ診療所 生活サポート外来 主任
特別支援学校自立活動教諭（言語障害教育）
作業療法士 鈴木 美智子



十日町市立ふれあいの丘支援学校 公開講座2019の講演会を担当しました。テーマは、「子どもの成長とことばの発達」です。教諭・保育士・各専門職・行政・子育て世代の保護者など73名の参加者でした。

人間の発達スピードは、さまざまです。特に、ことばの発達は個人差が大きいのです。なぜなら、身体機能（からだ・コミュニケーション（こころ）・認知機能（りかい）の3つの基盤の上に発達するからです。具体的には、声を出すための空気を貯めて出す器官やその空気を調整して音にする器官といった「からだ」の発達、人への興味関心やコミュニケーションをとりたいたいと思う気持ちなど「こころ」の発達、記憶する力やモノ・コトには名前があるという関係に気が付く「りかい」の発達のことであります。また、「こころ」の発達に大切なことは、「じしん」を育てることです。「じしん」とは、「自分の言動や判断は、これでいい」と思える気持ちです。

次に人間の発達に影響するものとして、遺伝要因と環境要因があります。私たち大人は、子どもの発達を促すための環境要因にたくさん働きかけることができるでしょう。生まれた時から、言葉の発達の土台は作られていきます。子どもの色々な能力は自然に芽生えるのではなく、環境から学んで成長してゆく部分が大きいのです。特に、ことばの発達に大切な「こころ」・「じしん」の発達には養育者との安定した愛着関係の上に発達してゆきます。また、その後の知的発達は、ことばの獲得を基礎にしてなされていくのです。

私たちの社会は、コミュニケーションの手段として、主にことばを用います。だから、たくさん話しかけて楽しい経験を積むことや、自分の気持ちが相手に伝わり受け入れてもらう安心の経験を積むことなど、ことばを用いる利得を子どもに経験させるのです。そして、ことばを用いようとする意欲と機会を提供するのは、私たちです。

ことばの遅れの要因や、障害が遅れなのかの判断も大切です。要因がわかれば支援しやすくなるでしょう。悩んでいることがありましたら、お声かけください。



★幼児期に獲得しやすいことば

わかりやすく言いやすいことば（犬より、わんわん）
自分に役立つことば
好きなことに関することば
よく聞くことば

★関わり方

子どもの興味を向けている物事から会話をすすめる
子どもの言いたい事を汲み取り、代弁する
子どものしていることに言葉を添える
耳にする頻度が高い言葉（挨拶や関わり言葉）を大切にする
質問をされたら、よく聞いて答える

★理解しにくいことば ～10選～

「みて!」「裸足で行っちゃだめよ」
「置きっぱなしにしないでね」
「みんなでいただきますしてからね」
「しずかに～」
「わかった?」
「前に言ったよね」「ちゃんとして!」
「ちょっと待ってて」
「しっかり見ていてよ」

★役立つ言葉 ～10選～

ばいばい・いたい・おふる・ごはん・
はい・ごちそうさま・いただきます・
おいしい・おはよう・せんせい

★褒める点

出来ていることは、「それでいい」と伝える
してほしい行動は伝え、できたら褒める
してほしくない行動は伝え、適切な行動を教える

私は2019年8月1日に「子どもの成長とことばの発達」というテーマの講演会に参加しました。講演内容はことばの発達についての基礎知識や、ことばを育てるための支援の方法などでした。

講演の中には支援方法の具体的な方法や、子供たちが理解しにくい指示等の提示もあり、参加されている先生方や保護者の方々、私にとっても分かりやすい内容でした。

印象に残ったことは、「ことばを育てる」には環境面や対応の仕方に左右される。つまりことば使いも注意が必要があるということです。私自身、普段の業務で子供たちと触れ合うことは無いのですが、もし支援する立場となった際には、「ことばを育てられる支援者」になれる様に今後も勉強していきたいと思えます。

フラメンコ鑑賞会

～その勇氣は会場に感動を与えてくれました～

萌気園通所リハビリセンター浦佐

大平 房子・小沢 萌



＜桑原 ゆいこさんのご紹介＞

平成 31 年 4 月より萌気園通所リハビリセンター浦佐へ通い始め、「いつか観客の前でフラメンコを踊りたい」という目標を持たれました。

その為、まずは目標達成の第一歩として、日頃一緒にリハビリをする仲間たちの前で踊れるように自主練習に励み、ご披露して頂きました。

大平 房子

ご利用当初に、以前入院されていた病院でフラメンコを披露した時のお写真を見せて頂きました。「普段は、右腕があがらないけど、踊ると腕が上がるの！」と良い表情で当時からのお話をされていて、いつか萌気園でも！と思っていたところ、「フラメンコ鑑賞会」を企画していただきました。

ご本人は、右半身の自由が効かず、体に痛みを抱えています。そんな中でも前向きに、運動免許の再取得や資格の取得、今回披露する為に一ヶ月前から曲決めや振付、練習に取り組みされていました。自分で左手でメイクをし、直前はとても緊張していました。ステージ上では夢中で踊り、アンコールまで：踊るにつれて右手の動きが良くなるのを間近でみて驚きました。普段の利用中にはみられない姿を見て、他の利用者さん、職員、皆が良い刺激になりました。

ご本人は、未だ日常生活や今後に対しても不安や不自由さが多々あると思います。本人の意向も聞きながら、心身共に良い方向へ向かえるように、一緒に考えていこうと思います。

理学療法士 小沢 萌



外来、病棟スタッフ、入院患者さん、研修医など大勢の方から集まっていただきました



理事長は往診先から駆けつけて鑑賞されました。



八月二十八日、右片麻痺の障害のある利用者さん五名と行ってきました。一か月前から楽しみにされ、朝迎えに行くという表情をされ待っていました。

障害があるからと不安がる事もなく、そば粉をこねる左手の力強さに驚きました。生地を伸ばす工程では左右のチカラが減が違ふ為、シワができてしまいました。お店の方のサポートもあり、笑いもあり、時々厳しく指導もあり、家族の様に楽しくそば打ちをすることができました。「きしめん」から「そうめん」まで多彩な麺の太さ。それも味があり、おいしく頂きました。

Let's go

お出かけリハ

手打ちそば体験IN上田の郷

萌気園通所リハビリセンター浦佐

大谷 靖子



萌気祭り 2019

萌気祭り実行委員長

萌気園通所リハビリセンター浦佐 諸橋 滉哉



今年の萌気夏祭り実行委員長の諸橋です！

まずお祭りに来てくださった地域の皆さん、ありがとうございました。

今年も沢山の方が来てくださり、大盛況でした。皆さん沢山食べて、沢山遊びましたか？今年も屋台が沢山ありましたね。各事業所、気合いを入れて準備をしました。

さて、今回のお祭りの目玉と言えば、豪華景品が当たる抽選会だったと思いますが、皆さんいかがだったでしょうか？あの会場の雰囲気、そして番号を読み上げる瞬間、皆さんドキドキでしたね。僕もドキドキでした。

最後に、僕と一緒に抽選会を盛り上げてくれた、巖志院長と荒井事務局長。この2人を中心にこれからも新しいことに萌気会は挑戦していきます！地域の皆様、期待して下さい！そして2人の顔と名前を覚えてください。よろしくお願いします。



うちの利用者さん

井口 澄様

(もえぎ元気アップ教室利用者)



「もえぎ元気アップ教室に通い3年経ちますね、どうですか？」

「初回からお世話になっています。途中、背骨の圧迫骨折をして半年休みましたが、続けてきて良かったです。」

「運動してみてくださいですか？」

「年をとり体力が落ちてきているを感じているので、運動していなかったら全然動けなかったと思います。呼吸法なんて考えていなかったのが、祥子先生に教えてもらい、体を動かしながら気持ちよく呼吸できるようになりました。」

「教室の雰囲気はどうですか？」

「指導してくださる祥子先生、アシスタントの職員さん、教室のみなさんが一緒に頑張ることが相乗効果となっているので、ずっと続けたいと思います。送り迎えは有難いし、元気に治って卒業していく人が出るのは嘘のように思っていたんですが、とても嬉しいです。これからも続けて通いたいと思います。」

先生の説明を聞き、理解し運動に取り組まれる澄さん。一週間に一度会える日を楽しみにしています。これからも一緒に運動を頑張りましょう

〈もえぎ元気アップ教室 職員一同〉

ふみ



昨年12月、かんたき萌気、コム・ソフィ＆ナースの開所以来お世話になっております。母は父が亡くなってから弟と2人暮らしを続けていましたが、昨年数回の入院により好きな畑仕事や家事が出来なくなっていました、医療依存度も高くなってきました。

そんな時、主治医の黒岩卓夫先生のお力添えもあり、コム・ソフィ＆ナースさんのレギュラーメンバーに加えていただきました。本当に感謝でいっぱいです。弟妹3人がローテーションを組み、通院や受診は弟が、介護は新潟市内にいる妹と横浜にいる私が新幹線で帰省しながら、本人が自宅に帰るという宿泊を中心にご利用させていただいています。母は迎えに行く「よしたよし」と声を掛けてきます。帰宅する度に、コム・ソフィ＆ナースさんの楽しいエピソードを聞かせてくれます。

往診の皆川先生や看護師さん、職員の皆さんの温かい介護で私達弟妹が介護離職せずに、母も安心して過ごせると思います。どうぞこれからも宜しくお願い致します。

〈コム・ソフィ＆ナース利用者

梶山サチ子様ご家族〉

スタッフ
募集

あなたの経験・技術・資格をいかしませんか？

介護職員 大募集 (正職員・パート勤務可)

まずはお電話下さい。025-781-6155 担当：荒井



〈桑〉

編集後記
☆暑かった夏が終わり、夜中や朝方には冷え込みも感じられ始めました。雨もたくさん降り、農作物にとっては恵物みの雨ではないでしょうか？☆皆さんはどのような夏をお過ごしになりましたでしょうか。私は、これと言って何もしなかったのですが、友人と水族館に行きました。男三人で行く水族館もいいものです(笑)。☆これから秋も深まり、食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋と楽しいことを思いきり満喫したいですね。